

## 平成30年度 学校評価総括表

1. 学校教育目標 一人ひとりを大切にし 知・徳・体の調和のとれた たくましく人間性豊かな児童の育成
2. 重点目標 学校職員の協働体制のもとで 子どもの主体性を重視し 役立つ喜びと 伸びる喜びを知る 規律正しい久勝の子どもの育成
3. 総括表

評価項目	考察 (成果と課題)	評価	次年度への改善点等	関係者 評価
学校教育目標	<p>昨年度より重点目標に規律正しい久勝の子どもの育成を加えた。本年度は「あいさつをする」「ろう下を走らない」「スリッパをそろえる」といった基本的な生活習慣の育成から取組を行った。保護者からは「学校は、学校教育目標に向かって努力している」という項目で88%の肯定的ご意見をいただいている。昨年度が77%であったことから学校目標の具現化について一定の評価をいただいていると考えられる。さらに経営方針の教職員間での徹底や施策の具体的な取組を充実させることでより信頼される学校づくりを行っていく必要がある。</p> <p>働き方改革への理解については保護者の約半数（50%）しかいただいていない。教職員の心身の健康が学校教育目標達成には不可欠なので今後理解していただくよう努めていく。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標の周知についてはPTAの総会や役員会、及びHPを活用し、徹底していく。</li> <li>・校内研修を充実することで教職員の学校教育目標の具現化について共通理解を図る。</li> <li>・「働き方改革」について理解を求めよう保護者に働きかける。</li> </ul>	A
学級経営	<p>児童は「先生はいじめや差別のない学校や学級にしようがんばっている」という項目において97%、また、「励ましてくれたり困ったときに話を聞いてくれたりする」ことにも89%が肯定的な考えをもっている。いずれも昨年度より10ポイント近く上昇している。このことから今年度の取組が児童との信頼関係構築によい結果をもたらしていると考えられる。一方、保護者は「教師は子供たちの悩みや相談に親身に対応している」ことへの肯定的な意見が78%にとどまっている。ただし、昨年度が72%であったことから6ポイントの上昇が見られる。学級の取組を学級通信や参観日を通してご理解いただき、日常でのこまめな連絡等の取組によりさらに保護者への信頼を得られるよう取り組んでいく。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果によると児童への指導についてはほぼ十分といえる。この取組が保護者に伝わるようにHP等で情報発信したり、気になることがあれば積極的に電話連絡したりし、状況に応じて家庭訪問等を行うようにする。</li> </ul>	B
家庭学習	<p>家庭で集中して学習しているかどうかについて、児童は82%がしていると考えているが、保護者は64%と大きな隔りがある。また、年度始めに配布している「家庭学習の手引き」を参考にしている保護者は48%と半分にも満たない。昨年度も48%と同じ数値であったことから本年度の周知や活用へのはたらきかけが十分でなかったと言える。宿題ができていないかの確認をしているかについては76%であり、今後も引き続き家庭へ協力が得られるよう努めていく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習習慣の育成については家庭との連携が大切であるため、引き続き「家庭学習の手引き」の活用をはたきかけ、個人懇談等では児童個々の能力に応じた助言を行うようにする</li> </ul>	A
保護者・地域との連携	<p>連携を図る上で、まず学校からの発信が重要となる。保護者からは「学校での様子や教育活動を懇談、学級だより、HPなどで知ることができる」ことについて92%、「保護者に出す文書や事務連絡等はわかりやすい」には94%が肯定的な意見をいただいている。また、今年度も「田植え・稲刈り・餅つき」や「野菜作り」「防犯教室」等で地域の方々と交流させていただいた。職場体験や施設見学、店舗や公共機関の見学も行った。これらの「開かれた学校づくり」を目指し、実践を行っていくことで、ふるさと久勝に誇りと愛着をもつ児童を育てていきたい。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙媒体やHPなど、情報内容に応じた方法で情報発信を行う。特にHPはある程度の更新回数を心がける。更新作業については複数が行うことで更新の頻度や情報の細やかさが改善されると考える。</li> </ul>	A
教科教育	<p>国語の勉強が好きと回答した児童が79%、算数は76%と基幹教科に対する心情的な意識が高いとは言えない結果となった。しかし、昨年度に比べていずれも6ポイント上がっている。また、「先生は工夫して勉強を分かりやすく教えてくれる」や「授業の内容が分かる」といった問いに対し、いずれも95%の児童が肯定的な回答をしている。今後もデジタル教科書やタブレットPC等のICT機器の活用や、主体的・対話的で深い学びが身に付く授業づくりの工夫などについて研修を深め、さらに分かりやすい授業づくりを行っていきたい。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を招いたり、研究授業を積極的に行ったりすることで教師個々の授業力の強化を図る。</li> <li>・ICT機器の整備や教材教具の充実を図るなど、教育環境の整備に努める。</li> </ul>	B
体力の向上	<p>本校では体力向上における特色ある活動として、週1回全校児童が業間休みの時間に「全校オリンピック」と名付けた運動を行っている。その成果として、休み時間は外へ出て遊んでいると答えた児童は85%で、保護者は「学校が、子どもにしっかり体力をつける教育をしている」という問いに90%が肯定的な意見を示したように、体力の向上に対する一定の理解が得られていると考えられる。しかし、教師のアンケートでは体力の向上に対する取組があまりできていないという結果も見られる。今後体力の向上に対して教師の意識の向上を図るよう取り組む必要がある。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業の充実を図る。</li> <li>・休み時間は積極的に外に出て遊ぶよう児童に働きかけをする。</li> <li>・可能な限り徒歩での登下校を行うよう家庭への協力の要請を行う。</li> </ul>	A
心の教育	<p>「学校は人権を尊重する意識を育てようとしている」への肯定的な意見は81%であった。児童は「先生はいじめやさべつのない学校や学級にしようとしている」ことに97%が肯定的な意見を示している。この隔りについて分析をし、人権教育について改善したり、保護者により理解していただくようにしていく。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育推進教師を中心に、教職員が一丸となって道徳教育に取り組む。</li> <li>・特別な教科としての道徳に対する指導方法の充実を図る。</li> </ul>	A
生徒指導	<p>保護者は学校が道徳心や社会のきまりを守る意識を学校が育てているかについては86%が肯定的な考えをもっている。また、あいさつができていないと答えた児童は92%、きまもりを守って生活できているかどうかについては89%の児童ができていないようである。あいさつはコミュニケーションの基本であり、あたたかな人間関係を構築する上でも非常に大切であるため、今後もさらに指導を続けていきたい。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導主任を中心に教職員の共通理解のもと、学校ぐるみで取り組む。</li> <li>・日々の生活を振り返り、その改善の意欲を高め、基本的生活習慣の育成を図る。</li> </ul>	A
安全教育	<p>本校では交通安全教室や災害時避難訓練、災害時児童引き渡し訓練、防犯教室を毎年定期的に行っている。また今年度は吉野川警察署と連携しての不審者避難訓練を行った。児童は「先生は子供たちの健康や安全に気をつけている」「地震や火事などのときどうやって逃げたらよいか理解している」の問いに対して97%が肯定的な考えをもっている。児童にとって学校が安全なところであるという意識があると言える。保護者からは同じ問いに対して肯定的な意見が87%であった。今後も地道に学校安全に取り組み、保護者の理解が一層得られるよう取り組んでいきたい。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関との積極的な情報交換を図り、より緻密な連携を図る。</li> <li>・安全教育の取組を保護者に情報発信したり、参加していただいたりすることで理解と協力をいただくようにする。</li> </ul>	A

### 4. 学校評議員からのご意見

- ・タブレットを積極的に活用できている。これからもICTの活用をよろしくお願ひしたい。
- ・道徳の教科化について学校の取組を聞いたが、安心できる内容であった。
- ・学力の個人差が気になる。特に文章を読む力が大切。今後も読解力をはじめとした学力向上に取り組んでほしい。
- ・PTA会長の選出が難しくなっている。また、PTA活動の働き方改革も必要ではないか。それらを含めたPTA活動についての見直しが課題である。
- ・今後、児童数の減少が予想される。対策も考えていかなければならない。

